

企業名： 京セラ

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

私は統合報告書 2021 から京セラは従業員の精神的、物質的幸福を追求し、社会問題に目を向け、周りの環境に対応しながらも 60 年培ってきた経営哲学を変えことなく変革を推し進める企業を目指していると考えられる。新型コロナウイルス禍での社会の急変化に対応するため 16 の事業部門・子会社を 3 事業セグメントへ集約し、グループ全体への最適化を図っている。また、企業価値と社会課題解決を両立する ESG 経営を重視しており、E（環境）では再生可能エネルギーの導入量増加、S（社会）面ではアメーバ経営の再活性化、G 面では社外取締役の増強と時代に合わせた動きをしている。そして成長の歴史として最先端技術と製品開発による新たな市場の創出を続けており、このようなところからも変革、革新を追い求める姿が見て取れる。現在は新たなチャレンジとして交通インフラ事業に取り組んでいる。以上より、京セラはサステナブル、革新的経営を目指しており、取り組みからも十分に理解ができる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

京セラは情報通信、自動車関連、環境・エネルギー、医療・ヘルスケアという四つの重点市場を持っており、中でも情報通信市場が売上高の割合の半分以上を占めている。最大の優位性はその技術力の高さであり、グローバル展開も進んでいる。実際統合報告書であげられている提供価値の例として環境に優しい基幹材料をフルに活かす窒化ガリウム応用システム事業やアパレル生産における環境負荷を低減する顔料デジタルテキスタイルプリントなどがあり、このような部門において京セラは他企業より進んだ技術力を持っており、現在優位性がしっかり保たれていると考える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

京セラの 4 つの重点市場はどれも次世代にも繋がる分野ばかりであり、特に環境・エネルギーはこれから多くのニーズが生まれていくだろう。ただこの分野に関しては他の企業も取り組んでおり、競争率は高めと言える。自動車関連においては、前述したように交通インフラ事業に取り組もうとしており、京セラの実績を考えると十分期待できる。医療・ヘルスケアにおいてはあまり具体的なことが書かれてなく、持続性があるかどうかは判断しかねる。しかし、京セラは情報通信において大きな優位性を持っており、情報通信はさまざまな分野にまで利用することができ、コロナ禍を経験した社会にとってこれからもニーズがあるため、全体としては持続性があると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

この統合報告書を読むと、京セラは全体として改革や革新を重視しており、社員一人一人の意識改革につなげていきたい姿勢が見える。今の時代において慣習や文化にとらわれず、新しいアイデアやチャレンジに進もうとする理念は大切であると自分は考えており、経営理念にもある「全従業員の物心両面の幸福の実現」から読み取ることができる従業員を大切にそのホワイトさからもこの会社で働くことで想像力、チャレンジ精神を育むことができ、人的資本の価値向上が期待できる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

経営理念及びどのような取り組みをしているのか、あるいはチャレンジするのかを理解することはできたが、競争優位性において京セラがそれぞれの分野で何を一番重視して自信を持っているのかが少し不明瞭であった。また、人事の基本方針をしっかりと明記すべきではないかと思った。